

# 目次

## 第1章

### 心不全のトピックス

心不全患者での水分・塩分制限はいかに	8
貧血を治せば心不全はよくなるのだろうか？	15
心不全では、全例に睡眠呼吸障害のチェックを行うべきか？	24
栄養状態の悪い心不全患者をどうする？	33
心不全患者に利尿薬をどう用いる？	42

## 第2章

### 不整脈のトピックス

心房細動の心拍数コントロールって何？	52
心房細動と心不全の微妙な関係	60
無症候性心房細動…得体のしれない存在	71
肥大型心筋症で突然死を予測できるか？	78
拡張型心筋症における非持続性心室頻拍には意味がある？	89
Electrical stormを見たら…	100

## 第3章

### 抗血栓療法中のトピックス

抗血小板療法中の抗凝固療法どうする？	110
透析患者の抗凝固薬、どうする？	122
抗凝固療法中の大出血の意義	128

## 第4章

### 冠動脈疾患のトピックス

虚血性心筋症の血行再建で心機能はどうなる？	136
PCI後のフォローアップCAGにどんな意味がある？	146
冠動脈石灰化は何を表す？	155

索引	166
図表	170
文献	172





## 急性心不全と慢性心不全では、水分制限の推奨が異なる

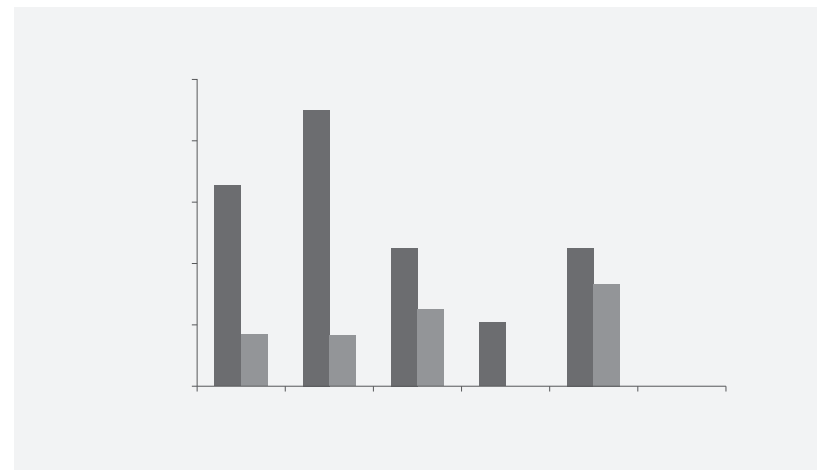
そこで、そもそも文献上、どの程度の情報があるのかについて見てみます。PubMedで“water restriction heart failure”と入れると99件がヒットしますが、内容まで一致するものはさらに限られます。“salt restriction heart failure”と入れると149件がヒットしますが、これもそれほど多くないことに気づくでしょう。当然のこととされていました、医学的な根拠は乏しかったのだと唖然としました。そして、最近になってようやく水分・塩分制限に関するエビデンスが報告されつつあります。

### 心不全に関する水分・塩分制限のエビデンスは少ない

まずは、急性心不全から。平均年齢60歳、左室駆出率(LVEF)45%以下の急性心不全患者75例を対象に、入院後7日まで水分0.8L/日、塩分0.8g/日という厳格な水分・塩分制限を施した群(IG: intervention group)とそれを行わなかった群(CG: control group、自由な飲水と塩分制限3~5g/日)に無作為に割り付け、3日後の体重減少と全身状況、ならびに口渇、退院後の再入院率が調査されています<sup>3)</sup>。その結果、両群間で、体重減少・心不全の程度に差はなく、IG群では口渇感が強かったという結果でした。退院後の再入院率にも差がなかったようです。IG群は極端な水分・塩分制限を施していますが、このような極端な制限の意味はないということになりますね。CG群では飲水自由とされていたにもかかわらずそのことによる悪い作用は認められなかった...つまり、昔から伝えられている「体液量は自由水ではなく、塩分によって規定される」という知識は生きています。塩分についてはどうなのか、という点は、この研究からは判然としません。IG群の極端な塩分制限(0.8g/日)の意義は見いだせないということから、CG群の3~5g/日で妥当と言えるのかもれません。

### 急性心不全で水制限を加える根拠は乏しい

次に、慢性心不全です。NYHA心機能分類Ⅱ~Ⅳ度の慢性心不全患者を対象としています。LVEF 40%未満もしくは40%以上で心不全入院歴を持つ患者を対象とし、さらにNYHAⅢ度ではフロセミド80mg/日以上、NYHAⅣ度では40mg/日以上の服用を行っていることを組み入れ基準として、各患者個別に介入し、水分1.5L/日、塩分5g/日に厳格に制限した群(49例)とその対照群(48例)に割り付けて比較検討されています<sup>4)</sup>。対照群では、心不全外来で看護師から塩分・水分を摂り過ぎないようにという指導のみがなされています。主要評価項目は、12週間後のNYHA心機能分類、入院、体重、末梢浮腫、QOL、口渇で構成する複合エンドポイントでした。この複合エンドポイントはやや複雑な気もしますが、結果として各患者個別介入群で、対照群より複合エンドポイントの改善が見られたとのこと。エンドポイントでの改善率を示しておきます。



さて、これら2つの試験、どのように理解しましょう。急性・慢性という病態は異なりますし、水分・塩分の制限量にもずいぶん差があります。前者では、自由飲水・塩分3~5g/日(この試験では緩いとされた群)で十分とされ、後者では飲水1.5L/日、塩分5g/日(同、厳格とされた群)が有効とされています。こうして見ると、各試験でそれぞれ「緩い」「厳格」と分類されたとしても、実際の治療の内容にはそれほど大きな違いは見えないのでしょうか…。臨床試験のポジティブ、ネガティブという表面的な結果に振り回され